

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成27年2月4～5日に陸奥湾2定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。※4～9月は久栗坂・川内のみ

1 ラーバの出現数

オベリア類(通称クサ)のクラゲは、久栗坂沖で3.3個/トン、川内沖で70.3個/トン見られました。(図1)

キヌマトイガイのラーバは、久栗坂沖で468.3個/トン、川内沖で990.6個/トン見られました。(図2)

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ユウレイボヤ、ザラボヤ、ネンエキボヤは見られませんでした。

なお、マボヤラーバが久栗坂沖で1.7個/トン見られました。

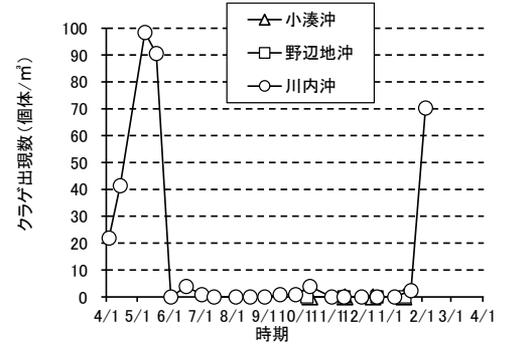
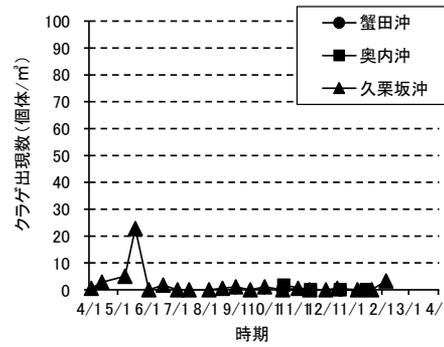


図1 オベリア類(通称クサ)のクラゲ出現数の推移

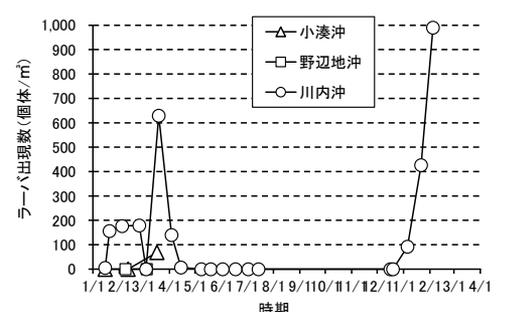
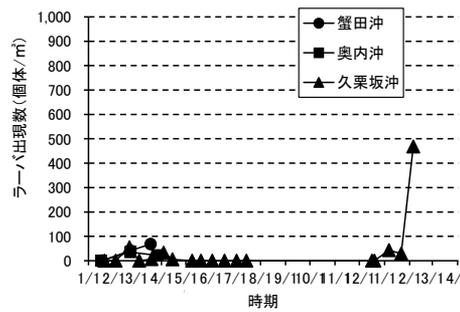


図2 キヌマトイガイラーバの出現数の推移

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
久栗坂沖	H27.2.5	0.0	0.0	0.0	3.3	468.3
川内沖	H27.2.4	0.0	0.0	0.0	70.3	990.6

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの2月8日の平均水温は表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(2/8)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	9.0	野辺地ブイ	6.1
奥内ブイ	8.1	東湾ブイ	5.4
青森ブイ		浜奥内ブイ	4.1

※奥内、野辺地、浜奥内は10m層、他は15m層

3 今後の見込み

オベリア類のクラゲ(写真1)の出現数が増加しており、昨年同時期よりも多い出現数となっております(図1)。

キヌマトイガイラーバも昨年同時期よりも多い出現数となっております(図2)。1月上旬から小型で判別し難い貝のラーバが見られており、それらが成長してキヌマトイガイラーバと判別出来るようになったものと思われます。

今後のラーバ等の出現動向、付着状況については、次回(2月下旬発行予定)の情報を参考にしてください。

また、次のページに平成25年10月～平成26年3月に実施した付着状況調査結果を掲載しましたのでご覧ください。



写真1 オベリア類のクラゲ



写真2 オベリアの成体

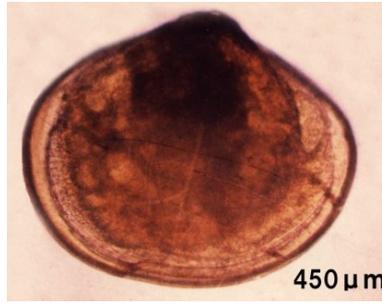


写真3 キヌマトイガイラーバ

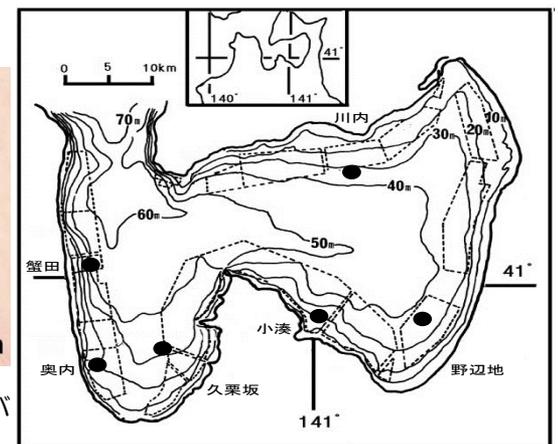


図3 ラーバ調査地点

発行元: 地方独立行政法人

青森県産業技術センター 水産総合研究所

住所: 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

TEL: 017-755-2155 FAX: 017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL: <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184>

ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード(①)

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード(②)



4 昨年度のパールネットへの付着状況調査結果

平成25年10月から平成26年3月まで毎月海中に垂下したパールネット（3分目10段で1連）を、4～6月に回収し付着生物の付着量を測定しました（図4）。付着量は、いずれの地区も垂下時期が遅くなるほど減少し、特に2、3月は少なくなりました。また、蟹田、野辺地、小湊ではキヌマトイガイが多く付着していました。

最近、一部の地区で、付着生物の影響を軽減するため、カゴの入れ替えやカゴ洗浄の対策が取られていますが、今後これらの結果が実施時期の参考になることを期待しています。

また、パールネットの種類や垂下水深の違いによる付着量の比較も行いました。種類による付着量の差は認められませんが、キヌマトイガイが水深20mに多く、ネンエキボヤとユウレイボヤが水深30mに多く付着していました。

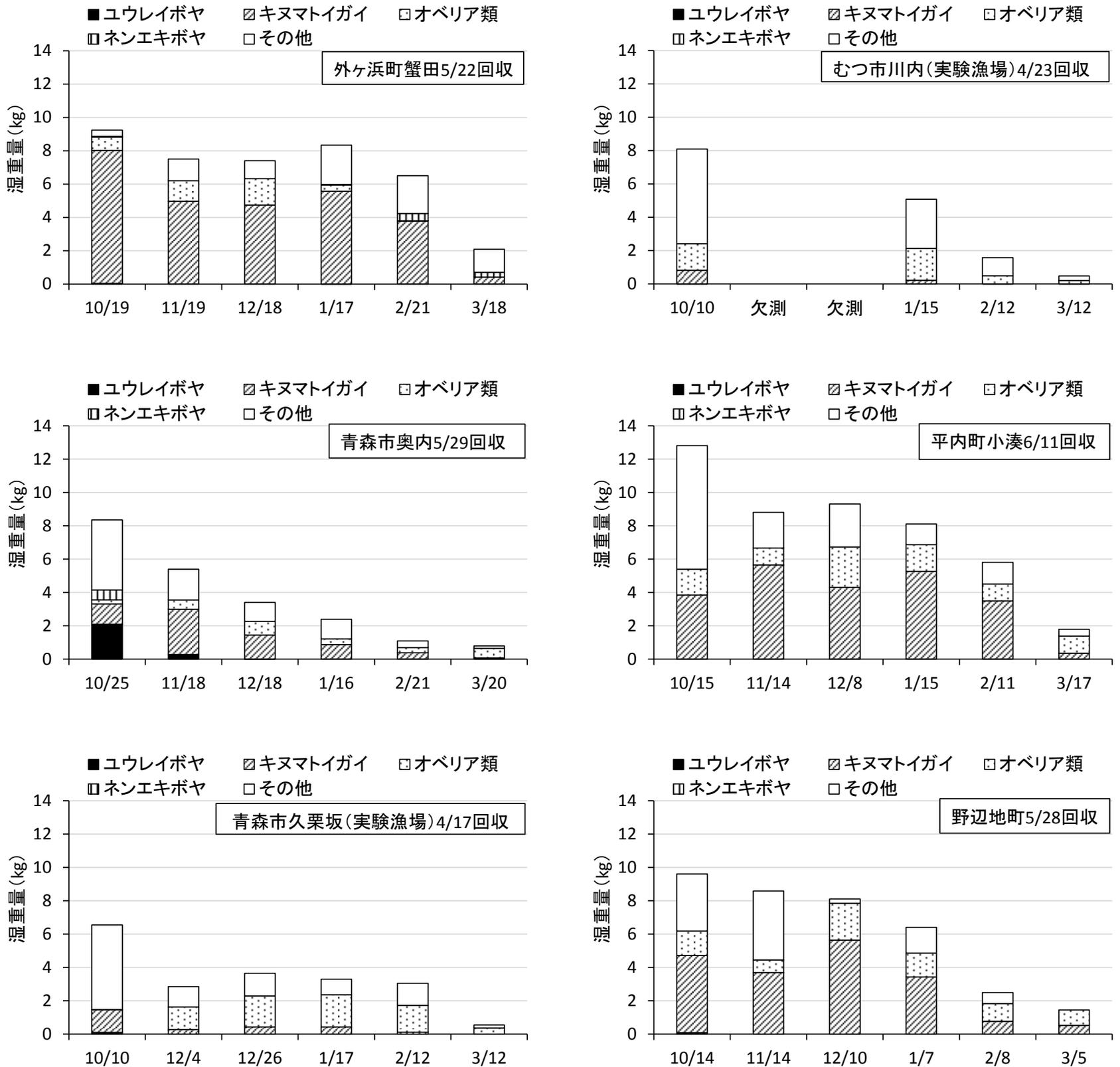


図4 垂下開始時期別の付着生物の湿重量（1連当り）
※その他の種類は通称ドロクサと浮泥が主体